

市議会モニターとの意見交換会

開催日時	令和4年3月18日（金）13時30分～15時15分
場 所	光市議会本会議場
出席議員	中本和行、林節子、森戸芳史、木村信秀、萬谷竹彦、田中陽三、笹井琢、河村龍男、大田敏司、仲山哲男、田邊学、西崎孝一、仲小路悦男、早稲田真弓、中村譲、小林隆司、西村慎太郎
市議会モニター	川畑龍治、古賀和人、高嶋修、深來登、吉永泰宏
事務局員	蔵下敏幸、松尾真、山本正実、起本一生
傍聴者	瀬戸内タイムス

1 開 会

議長あいさつ 中本議長



次 第

- 1 開会
(議長あいさつ)
- 2 市議会モニターから提言等の
発表
- 3 意見交換
- 4 開会
(副議長あいさつ)

2 市議会モニターから提言等の発表

【発表者】古賀和人さん

私が市議会モニターになった動機は、自分の住むまちが明るく楽しい、そして住んで良かったと思える場所にしたかったからです。私が市議会モニターを始めて早3年が経過しました。光市の施策が市民のニーズに沿っているか、また市川市長が述べられている市民の安心、安全につながっているか、さらに市議会の行政に対する監視体制が機能しているかなどを、市議会モニターの立場でウォッチしながら、必要に応じて意見・提言を行ってきました。市議会モニター発足当初は、年間100件を超える意見が出されていましたが、その後は年々減少傾向にあります。さら



に新型コロナウイルスの感染拡大も相まって市民の声が集約しづらくなっている今、議員の皆さんの創意工夫により、市民の声を幅広く集めるとともに、市民の理解を得ながら、議会活動を進めていただきたいと思います。

光市議会の活性化に向けて、3点ご提言させていただきます。1点目は「デジタル化に向けた議員と議会への取り組み」についてです。デジタル化によるまちづくりを推進し、市民の満足度を向上させる方針が掲げられている中で、光市議会では旧態依然とした体制が敷かれています。本会議場への大型スクリーン設置による議案の見える化や、タブレット端末導入によるペーパーレス化、及び議員一人ひとりの情報活用能力の向上に努めていただきたいと思います。ひいてはICT機器を有効に活用した、市民に分かりやすい議会運営を目指していただきたいと思います。

2点目は「一般質問の効率的運営」についてです。一般質問を行う際は、議員の皆さんは執行部に事前に質問を提出していると伺っています。それを受けて執行部は回答を準備しておられるようですが、詳細に答えるあまり回答時間が長くなり、議員の再質問が途中で打ち切られるケースが散見されます。また、執行部は回答を読み上げることに徹しているように見受けられ、議論の深まりがないように感じます。これらを改善するため、事前に執行部の回答を議員が共有することにより、効率的な時間配分や、より実りある議論につながると考えますので、ご検討をお願いします。また、光市の課題が山積している中で、一般質問の内容が重複しているケースが見受けられます。会派内や議会運営の中で一般質問の内容を調整していただくことをご検討ください。これにより、これまで取り上げられなかった課題が議論の場に上がることが期待できます。

3点目は「議会開始時間の変更」についてです。現在は10時から議会が行われていますが、9時30分に変更していただくことを要望します。議員皆さんの中には、議員以外のお仕事をされている方もおられますが、市民の代表であることを自覚し、9時30分から開始できる体制を検討していただきたいと思います。また、より多くの市民が議会に興味を抱いていただくために、土日での議会開催も併せて検討していただきたいと思います。

小林議員



古賀さんより「デジタルに向けた議員と議会への取り組み」「一般質問の効率的運営」「議会開始時間の変更」についてご提言をいただきました。いずれの項目においても市民の声が反映されていると感じました。

1点目の「デジタル化に向けた議員と議会への取り組み」について、本会議場に大型スクリーンの設置や、タブレット端末の有効活用というご提言がなされました。これらを導入することで、より効率的、かつ効果的な議会運営につながると考えますので、今後の議会運営の中で検討していきたいと思います。一方、コロナ禍の中でも議会運営が滞らないよう、昨年オンライン準備委員会を立ち上げ、Zoomを活用した会議体の検討を行いました。その結果、議員一人ひとりの情報活用能力の向上等につながったことをこの場を借りてご報告させていただきます。

2点目の「一般質問の効率的運営」について、重複質問の統合調整や、執行部の回答書を

事前調達による有効活用という提言がなされました。これについても今後の議会運営の中で検討していきたいと思えます。なお、議員が事前に執行部に質問を提出している目的は、議員の質問の背景や趣旨等を正しく執行部に理解していただき、一般質問の精度をあげることと認識していますので、ご理解いただけたら幸いです。

3点目の「議会開始時間の変更」についても今後の議会運営の中で検討していきます。

田中議員

古賀さんのご提言のなかで、明るく楽しいまちというキーワードがでました。実は今日、光市内の小学校で卒業式が行われています。私自身の小学校生活を振り返ったとき、苦しかったことや、楽しかったことを仲間と共に共感し乗り越えてきたことが、今の明るく楽しい未来につながっていると思えます。モニター制度が発足したことにより、様々なバックグラウンドを有する市民が、議会に参画することにつながりました。今回いただいたご提言に対して、議会としてどのような答えを出すのかをしっかりと検討していきたいと思えます。



また、100件を超えるご提言の中で、検討中のままになっている案件が複数あります。議会としてPDCAサイクルが上手く回せていなかったことは、反省しなければならないと感じています。これを機に検討中の案件についても再協議をし、答えを出して、一歩ずつ前に進めていきたいと考えていますので、引き続きのご協力をよろしくお願いします。

【発表者】 深來登さん



私は議会モニターを約3年間続けていますが、今回の3月定例会の中で、光市をより魅力的なまちにするための様々な施策が打ち出されたことを受けて、光市が新たなステージに移行したと感じたとともに、大変嬉しく思いました。

さて、光市をより良いまちにするために、何点かご提言させていただきます。昨年、小中一貫「施設一体型ひかり学園」の具体的な方針が打ち出され、光市における学校教育の方向性が示されことは大変素晴らしいと評価しています。一方、経験の浅い教員の学習指導レベルをどのように向上させていくかは喫緊の課題だと思えます。例えば、少人数制の授業を試験的に実施してみることも改善の一つだと考えています。また、遠方からの通学等の課題がある中で、各地域に学園都市を創り上げていくことは非常にハードルが高いことですが、議員の皆さんを始め、本事業に携わる方々の英知を結集して、より良い方向に導いていただきたいと思います。さらに、事業の進捗を定期的にチェックし、状況に応じて方針の見直し等も柔軟に検討していただくことを要望します。

次に「市議会広報紙の早期実現」について提言します。過去に光市でも議会だよりが発行されていますが、現在は休刊している状況にあります。そのため、議員皆さんの活動が見え

づらくなっています。市議会広報紙の発行を通じて、議員がどのような考えで、どのようなことに取り組んでいるのかなどを披瀝し、議員活動の見える化に取り組んでいただくことを要望します。また、様々な施策に対する「議員」「会派」「光市議会」のそれぞれの考え方や、将来ビジョンも併せて示していただきたいと思います。

続いて「地域内交通（デマンド型）」について提言します。これまでも地域内交通の充実に向けて様々な施策が展開されてきましたが、依然として課題が山積しています。停留場所やそこまでのアクセス等について、地域の特性をふまえ、調査研究していくことが必要だと思えますが、最終的には地域内交通「デマンド型」の導入に期待しています。これを導入するためには予算が必要となりますが、高齢化が進展する地域においては市民の生活に大きな支障を及ぼすことから、積極的なご検討をお願いします。例えば、地域を限定して、家庭と家庭をつなぐなど、地域の実情を勘案した方法を検討していただきたいと思います。

最後に「スマホ活用の情報受発信ツールの導入」について提言します。全国的にITが推進され、市民の利便性が高まりつつあります。一方、消費者詐欺などの様々なトラブルが発生していることをふまえ、本件は慎重に検討していかなければならないと思えます。情報を正しく管理・伝達することができれば、市民の生活は非常に便利になることから、市民の情報活用能力向上と並行して、検討していただくことを要望します。

もう一点、ナイスケアまほろば（以下、まほろば）についても言及しておきたいと思えます。この問題がなぜ起きてしまったのか、誰のせいになったのかなどについては、追求する必要はないと思えます。まほろばが設立された当時は、その時代のトレンドに合った仕組みだったと思えますが、時間の経過につれて適応しなくなったことが、まほろばの経営悪化の一つの要因だと認識しています。これらをふまえ、出来る限り早く結論を導き出していただきたいと思います。

市川市長の発言のなかで、新たな課題に柔軟に対応する「しなやかな」やさしさを未来に届け続ける「たくましさ」、地域や世代を超えた「つながり」が重要だとありました。これらの考え方を市民全体で共有しながら、各種施策を進めていただきたいと思います。また、限られた時間の中でもしっかりと議論を尽くしていただき、一貫性のある、かつ重みのある執行部の回答を引き出していただきたいと思います。さらに議員皆さんと執行部、また市民が手を取り合って、何でも自由に意見が言い合える体制を整備していただくとともに、議員皆さんの創意工夫のもと、慎重に物事を進めていただくことを要望します

仲山議員

多岐にわたるご提言をいただき、誠にありがとうございました。いずれのご提言も市民の声が反映されていると感じています。特に議会および執行部の取り組み等について事例を基に紹介しながらご提言いただいたことを受け、今後の議会運営が非常に重要であると再認識しました。

また、何事に対しても調査研究、進捗確認、意見提言、審議のサイクルをより効果的に回して欲しいとのエールも受けましたので、その思いに応えられるよう引き続き頑張っていきたいと思えます。



笹井議員



議会モニター制度創設から早3年が経過しました。その間、様々なモニターの方から貴重なご提言をいただき、多くの気づきが得られました。同時にもっと早く本制度を導入し、色々なご提言を聞けば良かったと思っています。その背景には、光市議会は二元代表制を敷かれており、市議会（議決機関）、市長以下執行部（執行機関）に分かれています。議員は選挙や後援会活動を通じて支援者の声を聴きながら議員活動に取り組んでいます。

過去を振り返ると、議会は陳情や請願等から市民の声を伺っていましたが、より開かれた議会を目指して、10年前から議会報告会、3年前から全国に先駆けて議会モニター制度を導入しました。議決機関である議会が、モニター制度を通じて、市民の皆さんと自由に意見交換できることは大変嬉しく思うとともに、導入して良かったと感じています。

一方、議会は議決機関であることから、議案に対する質問や審議等の権限が少なく、物事を進めているのは執行部ではないのかという声を耳にします。そのような中、議員はこれから起こりうる問題を未然に防ぐために、一般質問をはじめとする議員活動を通じて、執行部に対して様々な意見提言を行っています。

デマンド型交通については、各地域の先進地を視察して得た情報を基に、執行部の考えを確認しました。また、スマホ活用受発信ツールについては、議員の中にITスキルの高い議員が増えたことなどをふまえ、執行部としっかり議論し、より良いツールになるよう取り組んでいます。

さらに市議会広報紙については長期間休刊していますが、令和4年度予算において発行にかかる費用が計上されました。予算可決後には、皆様のご期待に沿う議会だよりが作成されると思いますので、ご期待ください。最後に今後とも様々なご提言をいただきますよう、よろしくお願ひします。

3 意見交換

古賀和人さん

市長の施政方針の中で、選択と集中をより深めるという言葉がまず冒頭に出てきました。その代表的なものが、ナスケアまほろばの民営化で、その一部に当たると思っています。この選択と集中という言葉は深い意味がありますが、私は、ヒト・モノ・カネの有効活用に注力し、それ以外の事業縮小や売却、外部委託することであり、また経営資源を効率的に活用することで、事業価値の増大を望んだり、或いは撤退をし、黒字の事業やコア事業に注力していくというような意味があると考えています。逆に言うと、今ささやかなことでも、頑張ってる部分の芽を切るということも考えられる発言じゃないのかなと思います。このことについて、議員の皆さんがどう考えているのか、お聞きしたいと思います。



河村議員

平成になる頃に、「小さな政府・大きな政府」という議論がありまして、私自身は、小さな政府を目指す心根で、活動してきました。私は、民間でできることは民間でやっという思いですので、今回の提案については、もっと早くに決断すべきであったと思っています。しかしながら、合併の時にはいろいろな約束事があったものと思われ、その中身については承知しておりません。そのような問題と、職員の方をどういうふうな処遇でこれから扱っていけばいいのかという2点をしっかり議論して進めていき、小さな政府を目指すことが本来の行政の役目だと思っています。



木村議員



選択と集中については、様々な側面があると思いますが、限られた予算、それから一般財源が非常に厳しい中で、覚悟が迫られると思います。そんな中で、選択と集中という言葉とともにスクラップアンドビルドという言葉も出てきたと思います。何を壊して何を作るか。今まで行政が作り続けてきましたけれど、やはり壊す覚悟も必要なんだということが、この中に含まれていると、私はそのように感じております。

高島修さん

予算がないから、何か大きなテーマがなかなか進められないということは、違うと思います。しぶとく年数をかけて積み上げていくという仕事に、取り組んで欲しいと思います。

いろいろ市政を見てみるとよくやっているといます。例えば、まず、光・歴史文化体験クイズラリーです。3年目になりますが、評判がよく、光市外からも参加する人がいます。良い勉強になるし、良い発見がたくさんあります。今年は4回目がある予定なので、私もぜひ参加したいと思っています。

2点目は、伊藤公資料館の案内ビデオとリーフレット・館内の刷新について、整理されて見やすくなりました。一方で、以前と比べて、ふるさと郷土館はお金を払って中に入りたくないなという気持ちがあります。

3点目は、東荷小学校と、東京の伊藤小学校の交流学習について、良い取り組みなので、各学校や地域でユニークな取り組みを続けてほしいと思います。

他にも、光市移住促進パンフレットなども非常によくできていると思いますが、少し寄せ集めという印象を受けます。

それから、光環境健康ウォーキングマップというのがありますが、全市で9コースあって、それぞれに3コースずつあるという形で、良くできており、素晴らしいと思います。

光市の観光ガイドブックは良くできているが、写真にあるようなシーンを実際に見たときに、現物はもう全然輝いてないなという印象も逆にあります。

光市応援寄附金、いわゆる、ふるさと納税ですが、いつの間にか、全体でもう100件を超えていますよね。こんなにあるのかと思いますが、実際の魅力度などで実績のランキングを上



げて、もっとレベルアップしていくような仕組みがあると良いなと思います。

こういうのを見ると、個別にはですね、市の職員の方一生懸命、よく仕事をやっていると思いますが、市としての具体的で大きな戦略が見えないです。総合計画はありますが、定性的な表現ばかりで、具体的に目指すものが見えない。議会も市も、もっと夢のある大きなテーマを具体的に

に見せて欲しいと思います。そして、それに対してどう考えるか、私の提言です。

1つ目は、光市には古代と近代における超有名な人物が6人います。これをうまく整理していけばいいなと思います。古代において、一人目は、神宮皇后で御手洗湾です。二人目は、中大兄皇子で岩城山の神籠石。三人目は菅原道真。それから近代においては、高杉晋作や維新の伊藤博文。最後に人間魚雷回天の青年兵で、これはもっとうまく整理して、検証したら、光の資産になると思っています。

2つ目は、瀬戸内海国立公園の都市だと、公園都市としてアピールすることです。工業都市の中で、これだけ自然に恵まれた都市はないと思います。もっとアピールしても良いし、昨年4月の改正自然公園法を市や議会としてどう受けとめるか。これに乗じて、何か新しい動きが国の補助をもらってできるんじゃないかななどの発想が欲しいと思います。

3つ目は、大きな大企業を活用することです。1つは武田薬品工業ですが、光工場は外資だからいつ出て行くかわからないという話もありますが、光市は武田の誇るグローバル生産拠点だと思います。大きな会社があるんだから、いわゆる健康宣言都市光であるとか健康産業を振興するなど考えたらよいと思います。武田の力をもっと引き寄せて使うべきだと思います。そしてもう一つは、日鉄ステンレスです。周南と合わせて、世界最大級のステンレスの基地なんです。この地の利を生かしてもっと金属産業を振興する方策を考えると、或いは金属工芸のアーティストを呼んで育成する。材料は、日鉄ステンレスから、ただで出せとお願いをするなどの振興ができないかと思っています。

4つ目は、おっぴ宣言都市ひかりを活かしてほしいと思います。もっと子育てに関して、国から何か私にはわかりませんが、補助してもらえないか考えて欲しいと思いました。つまり、私が言いたいのは、何か目に見えて大きな具体的なテーマを掲げて、それを議員個人や会派にこだわらず、共同で一致して進めていくような姿を見せて欲しいなと感じました。

笹井議員

今言われたように光には、古代近代に有名な方がいます。海軍の工廠ができたり、大企業ができたということで、今の光市の経済体制ができてるわけですが、ただ、光、大和、周防それぞれ、その前から歴史があって、特に幕末には高杉晋作が来たり、伊藤博文が生まれたりということがあります。

ただ、私も歴史はある程度、感じておりますが、そういう良い歴史が逆に、敗戦とか、或いは幕末だったら脱走事件など悪い歴史の中にあって、光が当たっていないものもいくつかあると思っています。

それが、昭和を過ぎて平成に移って、令和になった段階で、ネットも普及し、いろんな研究者の方の論文も見えるようになりました。私も現地などを調べまして、今だからこそ、言

われたようなことを統合してPRすると、全国に広がって、好きな方が来られると思います。そういった新しいステージで整理して、市の魅力としていきたいと感じました。

小林議員

私は企業の利用についてお話をさせていただきます。私が勤めてる武田薬品は、おっしゃる通りグローバル拠点になっていて、フラッグシップ工場としての位置付けが非常に高いと思っています。本当に企業を有効に活用していく考えは非常に良いと思っています。会社の方とも、地域に対して、どういうことが貢献できるのか、内々にお話をしているところです。そういう点も踏まえてしっかりと地域の方に、企業としてどのような形で参画をしていくかもぜひ検討していきたいと思っています。

日鉄ステンレスにつきましても、興味を引いたところがございますので、そういう点も踏まえて、ぜひ積極的に企業を巻き込んでいく、民間を巻き込んで、そして学校も巻き込んで、いろんな人の参画を得ながら、この市政を考えたいと思います。

仲山議員

私は22年前に光に引っ越してしてきたのですが、このまちの一番の魅力は、海があることだと思います。瀬戸内海沿岸と言わず全国見渡しても工業都市で、これほど自然豊かなところは他にないです。私も、いつももったいない、もっと海を生かして、活気のあるまちになるはずだと思います。これからも、取り組んでいきたいと考えておりますので、見守っていただければと思います。

それから、議会全体で力を発揮するような取り組みが必要ではないかということも、おっしゃるとおりだと思います。どういうことができるかわからないですが、頑張っ参りますので見守ってください。

西崎議員

東荷の伊藤公記念館では土産物を売っております。東京や北海道など全国から来られた方に、ここが千円札第1号の、しかも日本初代の総理大臣の生まれた家、それから記念館があるんだと、土産を買って帰ろうかなという人が随分あるのですが、実績を見ると、1日700円程度の売り上げです。

私も10ヶ月前に行ってみました、ガラスケースの中に土産物の見本が置いてありますが、記憶では4種類だったと思います。全然売る気がないように見えます。1日700円は非常に情けないんです。千円札のせんべいなんかでも作ったら良いと思います。

人件費など、市の方は、かなり補助金を出してありますが、従来通りのことを実施して、市の補助金から給料をもらえばよいという形では、無駄な金になってしまいます。市のOBも館長でいるんだから、知恵を働かして、土産物もどんどん買って帰っていただけるような体制作りが大事だろうと思います。



森戸議員



総合計画の話もありますが、お話を聞いてて気になった点は、二大企業のところですよ。昔は、5万人虹の祭典っていうのがあったり、産業祭もありましたけど、なくなりました。

市役所の玄関に、二大企業の製品が飾ってあったりもしましたが、今はその展示さえも撤去しています。二大企業に対する距離が少し遠くなっていると感じますので、まずはそういったところから近づけていく工夫が必要だと思います。

また、二大企業のOBがたくさんいらっしゃるんで、中小企業に転用できる人材の登録を進めるような仕組みがあってもいいのかなと思います。そういった、かけがえのない財産を活用して、光市の発展につなげていくことができたらというふうに思っております。

高島修さん

基本的に会社は市民のことはあまり考えていません。正直に言って、会社員はお客さんより、上司が大事だと感じています。だから彼らの力を引き出すには、やっぱり市長なり議長なりが、経営者に向かってもっと光市に貢献してほしいと言わないといけないと思います。

僕らOBに期待しても無理があります。納めた税金の一部を市の産業育成のために、ステンレス産業育成のために使わしてくれ、使うから出せというぐらいの方針をやっぱり、市長なりが出して欲しいというか、そういう付き合い方をして欲しいというふうに思います。

森戸議員

OBの方の件に関しては、実際に中小企業に行かれて、役立っていることでもありますので、進めていく必要があると思います。今後、そういった提言もしていきたいと思います。

深來登さん

先ほどから出ているナイスケアまほろばの問題について、先が見えてるようなんですが、それを一方的に突き放してしまうようなやり方は人間的でないと思います。10年も20年も、そこに働いておられた方や患者の方々の歴史を考えると、お金が足りないから民間に渡して解決するというのは、意義はあるかもしれませんが、私はあまり賛成しません。それならどうするかという案は出ませんが、対象になっておられる従業員の方々は胸を痛めておられると思いますので、暖かい目で見て、どうしてもできないという状態になってから決断をしてもよいのではと思います。

ふるさと納税を10年ほど前からやっています。良い物を注文して、夫婦2人では食べきれませんので、小学校の運動会の後かなんかで、配ったりしております。お金を還元するわけではないですので、必ず地元企業や物品を買い上げる訳ですので、地域にとっては、役立つことだと思います。なぜ光があまり推進しないのかなと、盛んに行政の方に聞いてみるのですが、出せるようなものがないような話をされます。もう少し考えて、工夫が必要だと思います。



田邊議員



ナイスケアまほろばの件ですが、私が一番思うのは、今、採算が合わないというところなんですけど、私ども議員が、昔から、その国の方針、いわゆる介護報酬などをもっと勉強して、国の施策として、示されたときに、各自治体にどれだけ影響があるかというところをよく考えて、議会に臨まないで、今回のような結果になると思います。

国の方では財源がないので、地方交付税交付金で、どこに住んでも同じような形で生活できると国は謡っております。その中で、新しい法律を作るたびにこの地方にどれだけの影響があるかをよく考えた上で、毎回議会に臨み、結果として、致し方ないというのなら、ありとは思いますが。

だから、ナイスケアまほろばでも、大和町時代は採算があって、運営できていたが、年代を追うごとに厳しくなったというのは、現状のことであって、それより以前に、こういった法律が通ると、どれだけ自治体に影響を受けるかというところをよく考えていかないと、これからどんどん厳しくなってくると思います。ナイスケアまほろばだけでなく、二つの市立病院の件でも、近いうちに問題になってくるのかと私は思います。どれだけ地方が抵抗するかというところは示していかないと、最後には自治体の住民が一番苦勞するというところになると思います。私たち議員は、住民の福祉と利益のために尽力することで一致しなければならないと私はそう思っています。

河村議員

ふるさと納税についてお話をいたします。この3月議会の委員会の中で、私がちょうど質疑をしたのですが、現行では納税のお礼品等を含めて、1,500万円ぐらいの予算を組んでおります。入ってくるお金はというと3,000万円ぐらい。しかし、今、深來さんご自身でふるさと納税してますというふうに言われたように、出て行くお金があり、それが8,000万円ぐらいあります。ですから、よそから入ってきて欲しいし、でも出て行くのを何とか食い止めたいというのも当然あるわけですので、その納税者へのどういったサービスがこれから必要なのかなというのを考えていく必要があります。今は、こういった状況ですから、生活困窮者でありますとか、このコロナ禍の中でいろんな支援をしてるわけですが、実際には、よそにこういう返礼品があるからということで、納税者の全員がよそに行くようなことになったら、市の税金ってなくなるわけです。そこはきちっと食い止めていかなければならないという、そのバランスをしっかりとっていくということが大事だというふうに思っています。



この議会に出るようになって、梅まつりをずっと続けてきました。25年やったんですが、その中で一番感じたことは、お土産がないということです。お土産も随分提案して作ってきましたが、やはり大きな観光地に比べたら、並べられるようなお土産はなかなかできないんです。大きな損失を伴うお土産ものですから、必ず売れるというのは絶対ありませんの

で、ある時には失敗も当然ありますので、行政も後押ししながら、コンテスト等はやっておりますが、作ったものを販売するまでのお手伝いはないんです。そういったものをしっかりやっていけば、特産品、お土産品としてしっかりしたものができて、なおかつ、こういったふるさと納税の時には、それを目玉にするというふうに、取り組みができたとは思っています。

高島修さん

河村議員の話は、大事なことで、いろいろやってるけど詰めが甘いんです。継続的に追求してないんです。ふるさとの土産品とふるさと納税はかなり近い話で、先ほどから私も言うように、光市に種はあるんです。それを徹底的に追求していく姿勢が大事です。予算も時間もないと言っても、辛抱強くやるような仕組みが必要だと思います。そういう人達を上手くまとめて、さっきのOBという話も出ましたけど、シニアクラブなんか、そういう人材がいたら、うまく使うなどの工夫がいるような気がしています。

お土産品は良いものを作らないといけないと思います。例えば、光には鼓の海があったけども、あれは今なくなりましたけども、似たようなものでもっと古いものが東京にあります。極めて似たようなものですが、とてもおいしい。けども、室積のものはもっと良いと私は思っています。それを誰かが復興させれば、価値はあるし、それから冠天満宮なんかも全国の天満宮には良いお土産品がたくさんあります。だったら光の冠天満宮でも、もっと良いものを置いてもいいはずだと思うし、できると思います。ぜひ実施してほしいと思います。

田中議員



先ほど河村議員の方からもありましたふるさと納税ですが、これ総務省の方に全市町の入りと出の差が出ておりますので、見ていただけたらと思います。私も全国データを見たんですが、先ほど100品目以上が光市もあるという話があって、光市も正直努力してます。小さい商店の方でも、市の方がPRしにきて、ぜひ登録してくれというお話をいただいて、実際、年末に商品の注文があったというような声も届いております。これがあって、入の方も実際に増えていってる部分がありますし、令和4年度も、どのポータルサイトに載せたら効果的に光の商品が出ていくかということで、新年度予算にも付けておりますので、そこは発展的に進んでいる部分があります。

しかし、先ほど河村議員も言われた通り、違う自治体に納税する方が多いというのが大きな課題です。それは誰がやるのかって言ったときにですね、やはり節税対策ですので、ある程度やっぱり所得を持ってる方がやられてるのではないのかってところが想像がつかます。そうなれば、誰かとなると、ひょっとしたら二大企業の方たちかもしれません。そういった方たちに地元を愛していただくようにアプローチする取り組みも有効ではないのかなと思います。

お土産品につきましては、光市の方もオリジナルで予算をつけて、令和3年度事業は、今回終わり、今後は販路で支援をしていくような流れがありますが、実は、私も議員になって初めて気づいた部分があるのですが、周南市、下松市、光市、田布施町で地場産センターというものがあります。それは、お互いに出し合って運営をしておりますが、そこでもお土産

品の開発等をやっています。その中で周南ものづくりブランドという認定品を出して、その販路を使ってPRもしております。予算を出し合っているわけですから、いかに光市に引っ張ってくるか、その事業費を取って、光市の魅力を発信していくかということが大事なのですが、まだまだ弱いですし、そこに手を挙げてくださる企業の方たちも少ないです。なので、商工会議所、商工会等と情報共有しながら、事業支援をしながら、光市の魅力を作っていくことが必要だと思いますので、そこはまた引き続き私も取り組んでいけたらと思いますので、よろしくお願いいたします

古賀和人さん

こういうコロナ禍で、この度、光市長が市長と気軽にミーティングというタイトルで、市民の方との小さな座談会という形の意見交換会をやるようなスケジュールを組まれております。

以前、市議会の広報広聴委員会の方でしたか、いろんな地域で市民との交流会、座談会というものをしていました。確かコロナで約2年近く実施されておられません、今後のスケジュールとしてはどんな形で臨まれるのか、コロナ禍ではありますが、できないことはないと思います。

コロナ禍でも、市民の声を聞く重大なチャンスを失ってはいけないと思いますので、工夫をしながら市民の意見、あるいは考え方を吸収したり、意見を拝聴する機会をぜひ作っていただきたいと思います。

萬谷議員

コロナ禍で高校生との意見交換会も中止になりましたし、このモニターとの意見交換会も、ようやく12月に再開できたというところでありまして、基本的にはこれからはもう積極的にやりたいと思っています。私も議員になって、広報広聴特別委員会などに所属してきまして、その意見交換会等もみんなで作ってきたと思っています。私としては、ぜひやりたいと思っていますし、できれば多くの市民の皆さんに来ていただけるように工夫をしていきたいと思っています。



コロナ禍が早く終わって欲しいのですが、こういう中でも今、議場ではこういうふうに参加している置いていますので、今回は議場で開催させていただきました。しかし、まだコロナが怖い市民の皆さんもおられますので、その辺はバランスをとりながら実施していきたいと思います。令和4年度は必ずやりたいと広報広聴特別委員長としては思っております。

古賀和人さん

もう一つご提案させていただきたいのは、光市長自らも市民の中に入って行って、市民の声を聞くという機会をお作りになろうとされています。議員の皆さんも、市民の代表ということであれば、数名、5名から8名ぐらいでしょうかね、そんな方々とも膝を交えた座談会を開催されても良いのではないかと思います。皆さんと市民との距離が何となく遠のいてるような感じもしてなりません。非常に冷たい言い方をしますけれども、コロナによって、ご都合よく避けられてるんじゃないかと思え隠れするところも実はあって、恐縮な言い方でござ

いますけれども、そのように感じます。

政治そのものも市民に対するサービスに対しても、日に日に変わってくるが多々あります。特に今回、一昨日の地震の問題がありました。そうすると、ウェザーマップの見直しであるとか避難場所の問題を一番最前線で、市民が何を考えてどこへ行けばという話も、地元の声聞き、それからどう対応していくかも大変重要だと思います。

座談会のような形がとれるなら、市民との距離は、もっと身近に感じるようになります。市民の声を吸収し、市民の声は何を物語っているか、汲み取ることが出来る形が良いと思うのですが、いかがでしょうか。

中村議員



コロナ禍の中で、今まで実施されていた、座談会など、人に会って、意見交換会などを避けているんじゃないかというお声もありました。実際、私たち、新人議員は、コロナ禍の前を全然知らないわけです。食事会に行って皆さんと食事をしたり、膝を突き合わせて意見交換会をしたり、仕事上で視察に行って、いろんな勉強したりということが全くできていない状態です。新人議員に限らず、行きたいって

いう気持ちは、かなりあると思ってますし、私個人としても、1秒でも早く、コロナ禍でなくなって、いろんな勉強やいろんな人に会いたいという気持ちがあります。

コロナ禍の時期なので、積極的に人に会ってというのが、憚られる中で、私的には選挙の時とか、各陣営さんも配慮しながら、やられたと思うし、そういうのがあってからの今なので、これからオミクロン株も収まってきて、警戒レベルも下がり、ワクチンも普及した中で、動いていくのではないかと考えております。

先ほども、言いましたように、いろいろなミーティングや意見交換会をしたいというのは、根本的に皆さん持っていらっしゃると思うので、そのあたりは、ご理解いただければと思います。

深來登さん

最後になりますが、今回の3月議会本会議で、ロケットが飛んできたらどうするのという質問がありましたけど、それを聞かれて、皆さんどう思われました。ものすごく大きな問題で、外交的なことですが、それを光市ではどうします。これは質問の仕方を、もう少し変えていただかないと、どうかなという気がします。今、コロナで食べられないとか、給食でお弁当を子どもに配って回ってるような時に、そういう質問が出るのはどうかなと思いました。

森戸議員

光市議会でもロシアのウクライナの侵攻に関する決議を行いましたので、この件については国政のことではありますが、市としても決議をいたしましたので、国に対して、声をお届けすることを、議会の意思として実施したとご理解いただけたらと思います。ミサイル一つではないのですが、戦争自体のそういうケースにも対象にと思いますので、そういう決議もさせていただいたということをご理解いただけたらと思います。

深來登さん

そういう背景があつての議論であれば理解できますが、見方によっては、ものすごく雑な質問だなあという感じがしました。

森戸議員

同僚議員の質問でミサイルに関しても質問があつたと思いますので、我々も現実的に、そういうケースが起こりうるんだという認識を強くさせてもらったという点においては、よかつたのではないかなと思います。

早稲田議員

実際に先日の一般質問で私の方で、もしミサイルが飛んできたらどうするんですかというような質問をさせていただきました。その質問を執行部の方に聞くことによって、光市に国民保護計画というのがあることを知ることができました。

実際に起きたときにどうするんだということはありませんが、その前段階として、計画があるということを知れたということが、新人である私にとっては、まず第一歩でございました。これからもいろいろと光市を守っていく、国を守っていくために、思ったことは発言していきたいと思っておりますので、今後とも、よろしくお願いいたします



川畑龍治さん



私は、個人的な理由により、定期的に市議会を傍聴することができませんでした。これまでの議会でのやりとりや、本日の意見交換会の内容をふまえ、光市に対する私の想いを述べさせていただきます。

私は 40 代で、これからも光市に住み続けたいと思っています。そのような中、今回の意見交換会等の提言を聞いた時、率直に光市の将来に不安を覚えました。今年、光市の人口は5万人を割ったと伺いました。今後、様々な施策を講じたとしても5万人を回復することは非常にハードルが高いと思いました。

先ほどのご提言のなかで、光市には2大大手企業や虹ヶ浜海岸を含む恵まれた大自然があるとの報告がありました。これらの素晴らしい素材をより洗練された商品に仕上げていくことは、行政の仕事の一つと考えます。また、行政と民間企業が協働して、これらの商品を全国に広げていくことにより、光市のさらなる発展につながっていくと考えます。一方、この素材を活かしきれていない現状を目の当たりにして大変残念に思っています。

現在、ロシアがウクライナに侵攻したことで、多くの難民が出ています。この問題に対して、ある議員を通じて光市の支援状況を確認したところ、光市は受け入れないとのことでした。一方、近隣の周南市では難民を受け入れるとの回答でした。私は、光市の出した方針に落胆しました。個人的には、会社でも受け入れ、家族を含めた総合支援ができると考えてお

り、今後の状況を注意深くウォッチしながら、どのような支援ができるのかを検討していきたいと思います。

先ほど森戸議員より今回のウクライナ問題に対する光市議会の決議が出されたとの報告がありますが、これにより何がどう変わっていくかが明確になっていないことから、少し物足らなさを感じます。光市としてウクライナ難民を受け入れたとき、様々な課題が発生することが予想できる一方、一時的に人口は増え、それに伴う雇用が生まれ、税収アップにつながることも考えられます。このように、多面的な視点で、かつ積極的に物事に挑戦し続けることにより、光市を盛り上げていただきたいと要望します。

吉永泰宏さん



議会モニターとして1年間活動しましたが、定期的に議会を傍聴できず、議会にも関心が持てなかったことで、現時点では「意見がない」というのが正直なところです。一方、その他のモニターさんに目を向けると、豊富な知識のもと、光市のことを本気で考えている姿を拝見し、自身の取り組み姿勢を深く反省しているところです。

私は42年間、光市に住んでおり、今後も健康である限り、住み続けたいと考えています。光市をより良いまちにするための第一歩として、私自身が議会に関心を持ち、議会モニターとしての役割をしっかりと果たしていきたいと思います。本日ここに参集されている方々は、光市に対して熱い思いを持たれていると推察します。「もっと住みやすくしたい」「活気があるまちにしたい」「豊かなまちにしたい」など、光市がより良いまちになるよう、引き続き皆さんとともに活動していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

4 閉 会

副議長あいさつ 林副議長



5 会場での発表以外に事前に提出された感想文

【市議会モニター 高島修さん】

私にとって初めての経験である市議会モニターという役目をいただき、大変貴重な経験をさせていただきました。この機会を得ることができたことに感謝と御礼を申し上げます。

私は現在、光市まちづくり市民協議会の第6期委員にもなっており、以前から光市のまちおこしや産業振興には大いに関心があり、引き続き市議会の動向にも注目していきたいと思っています。

市議会議員の最も重要な仕事は、議場での一般質問において、市長や市役所の担当責任者に対し、市民の代表という立場から市政の在り方について厳しく問い質すということであろうかと認識しています。

しかし、残念ながらその行為がどれほど市政の革新に結びついているのか良く分からないままでした。私の印象としては、各議員が個人的に或いは少数会派の一員として、脈絡があまりない質問を繰り返すだけで、どのような具体的な成果に結びついているのか、見出せない感じがしました。

各委員会では、光市の将来像を計画的に実現していく具体的に解決すべき問題や課題について、総合計画と関連付けて議論されるような場であって欲しいと思っていましたが、各委員会においてそのような革新的な議論が活発に行われて着実に積み上がっていく気配は感じられませんでした。

結局のところ、市議会モニターも、まちづくり市民協議会の委員と同じように、何かの“アリバイ作り”に使われているような、いわば“市民参加の”とか“市民に開かれた”云々というだけの類の、ある種の関与限界を感じてしまい、空しい気持ちになるのを禁じ得ません。所詮、モニターはモニターに過ぎないので、政治に直接関与できるはずもないのは分かっている、どうにもスッキリしないのです。

とはいえ、何事も経験しないと分からないので、この一年は私にとって貴重な経験であったことは間違いありません。ありがとうございました。